

田を植うる

山田真砂年

春雨に黒光りして力石

遺跡原雲雀のこゑの満ちあふれ

翻るときに眩しきつばくらめ

眩しさに雪形の馬跳ねてをり

おほどかな夜や月下の花の屑

新緑や塩振り端から食うてやろ

柿若葉口の中まで日に晒し

防犯カメラ錢葵まで映り込み

大穴子桶を一周して余る

梅雨菌自虐のもろさ色に出て

代掻き機上がりし痕の畦無惨

昼餉刻鍬一本が水田べり

田を植うる前の閑かさ浅間噴く

苗打ちの目の前にはね上げにけり

苗打ちの思ふところに落としたり

苗打ちのやつぎばやなる雨の中

泥濘にぬくみありけり田を植うる

田を植うる浅間に尻を突き出して

雨つぶの水輪のなかに苗植うる

寸分は狂うてをりぬ植田かな

梅雨晴間径を過ぎりて葛の蔓

半夏生草埃のごとく白すこし

あぢさゐは裏口に咲き縄のれん

ホータンの棉を逗子にて咲かせをり

胡桃割る四十雀来よ山雀も